

京の木生産・利用倍増アクションプラン 政策検討会議の進め方について

■趣旨

CLT加工施設やバイオマス発電施設の整備を控え、製材用、合板用、チップ用など多様な用途に応じた品質の京都府産木材の安定供給が求められている。このため、伐採、運搬、植林など木材生産に関わる工程を森林組合と民間事業者との協業により計画的かつ低コストでの生産を可能にするとともに、木材需要情報の「見える化」を進め、必要な品質、必要な量の木材をタイムリーに供給できるマーケットイン型の木材供給体制の構築を目指す。

■問題意識・課題

- 京都府においては府内の木材需要量（約 47 万 m³）に対して、その3割程度しか京都府産木材が生産されていない
- CLT加工施設や木質バイオマス発電施設の府内整備を控えているため、今後、より一層、木材加工業者のニーズに即して、多様な京都府産木材を安定的に生産することが必要となる
- 高品質な木材の供給量の拡大に向け、住宅の施主など木材の最終消費者に対する訴求性を有し、木材製品の消費拡大につながるような木材の高付加価値化の取組も必要である
- 京都府内においては、
 - ・ 木材の需給情報が具体的かつタイムリーに共有されていないことが、需要に即した木材生産・流通上の隘路である
 - ・ 求められた京都府産木材を安定的かつジャストインタイムで木材加工業者に供給するためには、京都府産木材の生産拡大を図ることが急務であるが、木材価格が低迷し森林所有者の森林経営に対する意欲が低下していることから、これまで個別に行われてきた生産に関わる工程（木材の伐採、運搬、植林など）を連携させるなど、低コスト・高効率な木材生産体制を再構築する必要がある

■検討していただく論点(案)

- (1) 木材の需要情報と供給情報（森林情報）を共有する仕組みはどうあるべきか
 - 木材加工業者が木材生産者に提供できる情報は何か
 - 木材加工業者が木材生産者に求める情報は何か
 - 木材の需給情報を共有する仕組みはどうあるべきか
- (2) マーケットインに対応した木材生産体制をどう構築すべきか
 - 新たな増産体制を構築するために必要な取組は何か
 - 生産に関わる部門でのコスト削減の手法はどうあるべきか

■スケジュール

■第1回検討会：平成29年8月1日13:30-15:30

進め方・現状認識の共有

- ・検討会議の進め方
- ・京都府の森林・林業の現状
- ・京都府産木材の需給状況

論点 木材の需要情報と供給情報（森林情報）を共有する仕組みはどうあるべきか

- 木材加工業者が木材生産者に提供できる情報は何か
- 木材加工業者が木材生産者に求める情報は何か
- 木材の需給情報を共有する仕組みはどうあるべきか

■第2回検討会：平成29年8月7日13:00-15:00

論点 マーケットインに対応した木材生産体制はどうあるべきか

【話題提供】 ゲストスピーカー

林野庁京都大阪森林管理事務所 勝占所長（皆伐再造林一貫作業による低コスト生産等）

- 新たな増産体制を構築するために必要な取組は何か
- 生産に関わる部門でのコスト削減の手法はどうあるべきか

■第3回検討会：平成29年8月31日10:00-12:00

【話題提供】 ゲストスピーカー

ナイス株式会社 （地域材をブランド化する流域材の取組）

- アクションプラン中間案の検討

■第4回検討会：平成29年11月上旬（日程調整）

- アクションプラン最終案の検討（パブリックコメント結果報告含む）
- 具体的な施策の検討